

## 今月の1冊から 2018年4月～6月

### 4月『いちねんせいの1年間 いちねんせいになったから!』

くすのき しげのり/作 田中 六大/絵 講談社



きょうはにゅうがくしきです。いちねんせいになったりゅうたろうくんは、どうすればともだちがひやくにんできるかかんがえました。にゅうがくしきで、へんじをするときにじこしょうかいをしたらどうだろう。えいごをつかったりしてもいいかな。それとも、じこしょうかいカードをくぼったらどうだろう。でも、とてもきびしいせんせいだったらどうしよう…。ドキドキしたままにゅうがくしきをおえたりゅうたろうくんは、ともだちをつくることができたのかな？ りゅうたろうくんのように、ドキドキしながらがっこうにっているいちねんせいのみなさんもいるとおもいます。でも、だいじょうぶ！ このほんをよんで、たくさんともだちをつくって、たのしいしょうがっこうせいかつをおくってくださいね！

### 5月『小湊鉄道沿線の旅 出発進行! 里山トロッコ列車』

かこ さとし/作・絵 偕成社

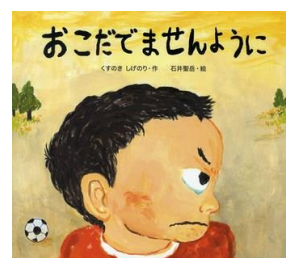


みなさん、トロッコ列車って何だか知っていますか？

車両の壁面（へきめん）などをとりはらって、光や風をからだいっぱいに受けられるようにした列車のことです。この絵本は、千葉県房総半島（ぼうそうはんとう）の小湊鐵道（こみなとてつどう）を走る“里山トロッコ列車”について書かれています。“里山トロッコ列車”はこの路線の中で、もっとも田園と丘と里山がひろがる里見（さとみ）駅から養老溪谷（ようろうけいこく）駅間を走っています。列車とともに各駅を進みながら、沿線（えんせん）にあるさまざまなものを紹介しています。里山の動植物や虫たち、南総里見八犬伝（なんそうさとみはっけんてん）の伏姫（ふせひめ）のモデルとなった姫のお墓があるお寺や、77万年前の磁場逆転層（じばぎゃくてんそう）などがでてきます。まるでガイドブックのようなので自分も列車に乗って旅をしている気分になりますよ！ そんな“里山トロッコ列車”に乗って、沿線のさわやかな風を感じてみませんか？

### 6月『おこだでませんように』

くすのき しげのり/作 石井 聖岳/絵 小学館



いつもおこられてばかりのぼく。

おかあちゃんのかえりがおそいときに、いもうととあそんであげているのに、いもうとがわがまをいう。ぼくがおこるといもうとはすぐないて、ぼくはおかあちゃんにおこられる。ほんとうは、いもうとがわがままばかりいうからなのに、ぼくがそういうとおかあちゃんももっとおこるから、ぼくはだまってよこをむく。がっこうでもよくおこられる。「ええこやねえ」っていわれたいぼくだけど、おかあちゃんもせんせいもいつもおこったかお。7がつ7か、たなばたさまのおねがい、ぼくはおねがいをいっしょうけんめいかんがえて、いちばんのおねがいをこころをこめてかいた・・・ぼくがいっしょうけんめいかんがえたおねがいごとはなんだったのでしょうか。なみだをためて、ぎゅっとくちをつぐんだ“ぼくのかお”がいんしょうてきな1さつです。